

21.7.29

鹿大の KAGOSHIMA UNIVERSITY チカラ

多島圏研究センター

野田伸一 教授(61)



毎年、夏になると悩まされる「蚊」。いつの間にか刺されるとかゆくなる。蚊に刺されても時聞がたてば、かゆみは自然と落ち着く。だが発展途上国などでは、蚊が媒介者となつてウイルスを人間や動物に感染させ、時に死をもたらすほどの恐ろしい病気を引き起します。

「蚊やウイルスがどういう経路で、その地域に侵入してくるのか。蚊の種類は、効果的な駆除策は何かと、わざ起こる疑問を一つひとつ解明していくのが面白いんです」

世界保健機関(WHO)が対策に入れている熱帯病10種のうち7種類は寄生虫病。「それだけ世界的にはまだ大きな問題。関心を持ち続けなければならぬ分野」と話す。

原因解明し、衛生改善を



南太平洋の島国、ミクロネシア連邦。この国を99年から蚊の調査で度々訪れている。現地で95年から流行し始めたデング熱の感染経路を解明するため、トカラ列島(十島村)の口之島と中之島、三島村の黒島。これらの地域で島民を悩ませているのが、ハエに似た昆虫

三島村の黒島で7月、ブユ退治のため効果的な殺虫剤の散布方法について学ぶ研修風景=野田教授提供

の口之島と中之島、三島村の黒島。これら地域で島民を悩ませているのが、ハエに似た昆虫

ももちろん目線は国内にも向けられる。トカラ列島(十島村)の口之島と中之島、三島村の黒島。これら地域で島民を悩ませているのが、ハエに似た昆虫

に結びついた病気。人々家畜の体内にすみ着き、どれもユニークな生き方をしている。そこがまた面白く、寄生虫に寄生し続ける要因なのかもしれないね。

リカ、中南米の発展途上国で多く見られる伝染病。感染すると高熱などが続き、最悪の場合、死に至る病気だ。

デング熱も蚊の媒介で広まつたとされる。東南アジアでウイルスを媒介する蚊は主に2種類で、太平洋の国々では地域特有の蚊も存在する。「台風の後の蚊の大発生に伴い、デング熱の大流行が起きてくると考えられ

る」現地調査では、発生源の蚊の幼虫を採取。蚊の種類や繁殖状況から感染経路の特定につながる研究を続ける。地道な調査の結果、公衆衛生の観点から研究を続ける野田伸一教授は、寄生虫学者と呼ばれる分野を専門にした研究者。この分野の研究者は年々減り、科学界の絶滅危惧種」と自分を例える。

デング熱は東南アジアやアフリカ、中南米の発展途上国で多く見られる伝染病。感染すると高熱などが続き、最悪の場合、死に至る病気だ。

研究フィールドは世界に及ぶ。人の血管内にすみ着く寄生虫病の調査研究でアフリカのケニアを訪れたり、腸管に寄生する回虫の調査でベトナムに赴いたりする。

今年は皆既日食で来島者が多くなるとして、地元では発生源にこまめに殺虫剤を散布。7月には野田教授も現地に出掛け、効果的な散布方法について地元青年会や学校関係者に対する指導した。以前に比べてだいぶ減ったと言われるが、ブユを死滅させるには時間が掛かるといふ。

員の入來院捷彦(かつひこ)さん(66)=鹿児島市下荒田1丁目=の初個展が28日、同市のギャラリー1杜が始まつた。影塑から真裏画、抽象画まで計41点が並ぶ

写真。8月2日まで。日置市吹上生まれ。鹿児島大学教育学部美術科で影刻家の中村晋也さん=鹿児島市常盤1丁目=の影響で影塑を始めた。高校教諭時

新聞
朝日
28

南日本新聞

19



大波小波
影塑や抽象画41点
鹿児島県美術協会会
員の入來院捷彦(かつひこ)さん(66)=鹿児島市下荒田1丁目=の初個展が28日、同市のギャラリー1杜が始まつた。影塑から真裏画、抽象画まで計41点が並ぶ

写真。8月2日まで。日置市吹上生まれ。鹿児島大学教育学部美術科で影刻家の中村晋也さん=鹿児島市常盤1丁目=の影響で影塑を始めた。高校教諭時

代には真裏画も指導。2003年の退職後から抽象画を始めた。会場には桜島や果物などの真裏画のほか、その時の心情により形、色で遊んでいる。いろんな試みをしてい

る。幅広い作風を見せてほしい」と話した。同ギャラリー=09

9(226)3441。